

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理(骨子案)

※この論点整理(骨子案)は、本有識者検討会における議論は中途の段階にあるものの、これまで、委員間で議論されてきた内容を踏まえ、作成したものである。

(目次)

1. これからの社会像とこれまでの学習指導要領の趣旨の実現状況

- (1) これからの社会像
- (2) 現行学習指導要領の目指したものとその趣旨の実現状況
- (3) 現行学習指導要領の実施上の課題

2. これからの社会像や現状の課題を踏まえた資質・能力

- (1) 学習指導要領における資質・能力の枠組み
- (2) 学習の基盤となる資質・能力
- (3) 学校におけるデジタル学習基盤の整備を踏まえた学びの在り方

3. 各教科等の目標・内容、方法、評価

- (1) 資質・能力の育成に向けた効果的な目標・内容の構成方法
- (2) 学習評価の現状と育成すべき資質・能力を踏まえた今後の対応

4. 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程

- (1) 現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方
- (2) 教育課程の柔軟性の在り方
- (3) 学校段階間の連携・接続の在り方

5. 学習指導要領の趣旨の着実な実現を担保する方策や条件整備

- (1) 教育課程を実施する上での学校現場の過度な負担を防ぐための在り方
- (2) 教科書・教材の在り方
- (3) カリキュラム・マネジメントの実態と今後の推進の在り方
- (4) 教育課程の円滑な実施に向けた学校への支援と環境整備

6. 学習指導要領の趣旨の実現に向けた政策形成・展開

- (1) 学習指導要領・解説等の形態
- (2) 学習指導要領の改訂プロセス、学校や教育委員会への浸透の在り方
- (3) 社会的ニーズとの整合性

1. これからの社会像とこれまでの学習指導要領の趣旨の実現状況

(1) これからの社会像

- 人口減少・少子高齢化や地球環境の有限性を踏まえた持続可能な社会づくり
 - ・一人一人が可能性を開花させなければ国が立ち行かない状況
 - ・資源や環境の有限性を踏まえつつ、環境・福祉と経済を両立していく必要性
 - ・コミュニティ存続が現実問題となる中、地域におけるヒト・モノ・カネの循環や幸福・福祉(well-being)の向上も喫緊の課題。当事者意識を持った社会の創り手を育てる必要

- 公正な社会における多様な子供たち一人一人の豊かで幸福な人生の実現
 - ・不登校児童生徒や特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒など、特異な才能を有する子供を含め、教育的支援を要する子供が増加し、子供たちの多様性が顕在化
 - ・子供の貧困など、世帯の経済的困窮等を背景に教育や体験の機会に乏しく、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある子供たちの存在
 - ・こうした多様な子供たちを学校教育の中で包摂し、一人一人の強みを伸ばしつつ、より良く資質・能力を育てていくことにより、豊かで幸福な人生を送ることができるようになることが重要

- グローバルな協働
 - ・グローバルな競争が進む中であって、国内外で異なる価値観を持った人々と、協働による課題解決も求められる。一方、国際的な分断や対立等も鮮明となっており、インターネットや SNS を通じてアルゴリズムで選別された自分の好む情報のみを取得することになる現象(フィルターバブル、エコーチェンバー)がそうした分断や対立を加速化しているとの見方もある。

- 生成 AI の加速度的発展など変化の加速化・非連続化
 - ・生涯に亘って学び続ける資質・能力がこれまで以上に重要に
 - ・テクノロジーと持続可能な社会の実現が重なる部分で価値を生み出せる社会へ
 - ・既存の情報を整理・分析するだけなら AI の方が有能。AI やデータを十全に使いこなすことは前提としつつ、豊かな人間性を育むこと、個々の情報の意味を理解し問題の本質を問うこと、課題を発見したり設定したりすることの重要性が高まる
 - ・そうした中で得られる質の高い知識が社会をよりよい方向に革新していく重要な基礎や基盤となる

- 前回改訂時に2030年頃の未来として描いた社会像が想像以上のスピードで現実化。これを危機と捉える議論に正対しつつも、むしろ未来を切り拓く絶好のチャンスと考える必要。
その際、非連続的な変化が予想される未来に向き合っただけで教育の在り方を考えることと、学校の現在の課題に向き合っただけで連続的な今を生きる子供たちのよりよい学びや幸福を確かなものにしていくことの両面を大事にする必要。

関連する御発表

第2回 広井良典 氏(京都大学人と社会の未来研究院副研究院長・教授)

超長期の人類史的視点から現在の日本の状況を捉えつつ、環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会」の実現の重要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kyoiku02-000027227_03.pdf

第3回 安宅和人 氏(慶應義塾大学環境情報学部教授)

生成 AI の急速な発展、持続可能性の危機、急速な人口減少といった時代背景に基づき、データや AI を使いこなすことができる力を育てることや、答える力のみではなく

問う力を育てること、物事の持つ意味や目的・意思・自分らしさといったその人なりの「心のベクトル」を育てることの重要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230328-mxt_kyoiku01-000028726_02.pdf

第5回 天笠茂 座長(千葉大学名誉教授)

第2回、第3回での御発表や、「令和の日本型学校教育」や「第4期教育振興基本計画」に係る中央教育審議会答申で見通されたこれからの社会像に関する議論を踏まえつつ、今後の学校教育に期待されることやその在り方について、教育課程やマネジメントの側面から御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230621-mxt_kyoiku01-000030496_02.pdf

(2) 現行学習指導要領の目指したものとその趣旨の実現状況

- 現行学習指導要領は(1)のような時代状況を一定程度踏まえて策定されたものであり、以下のような前文と総則のコンセプトは優れており、現在においてもおおむね妥当との意見。
 - ・「生きる力」の理念や「習得・活用・探究」の学習過程に関する考え方
 - ・学力観を「内容」中心から「資質・能力」を基盤としたものへと拡張
 - ・「資質・能力」の育成に向けた授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」を提起
 - ・深い学びの視点を契機に、知識相互の関連や概念形成に言及し「知識の質」の考え方を提起
 - ・各教科等の「見方・考え方」の提起により、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を明らかにし、各教科等を学ぶ本質的な意義を明確化
 - ・「社会に開かれた教育課程」の理念により、社会の変化に目を向けて柔軟に受け止めつつ、求められる教育課程の在り方を不断に探究し続けることの重要性を提起
 - ・「カリキュラム・マネジメント」の考え方を打ち出し、カリキュラムを改善し続けることの意義とその方向性を明確化
- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、社会経済的背景が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い、自己有用感が高いといった傾向。
- 現場の授業改善に一定の効果が見られているが、知識の概念としての理解や、自分の考えや根拠等を説明するといった思考力・判断力・表現力等の育成には課題も見られるとの調査結果。
- PISA2022では、世界トップレベルの学力を維持し、社会経済文化的背景による学力の格差が最も小さい国の一つであるとの評価も受けているが、感染症等により再び休校になったときに自律的に学習を行う自信が低いといった状況も見られる。

関連する御発表

第13回 富士原紀絵 委員(お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授)

全国学力・学習状況調査の結果やお茶の水女子大学が実施した追加分析等に基づき、学習指導要領の趣旨実現に向けた学校現場の取組状況やカリキュラム・マネジメントの実態等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_03.pdf

第13回 国立教育政策研究所教育課程研究センター

国立教育政策研究所が実施している小学校学習指導要領実施状況調査に関して、現時点での暫定的な分析状況に基づき、学習指導要領の趣旨の学校における受け止めや資質・能力の育成の状況、教育課程の裁量の在り方に係る学校現場の考え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_2.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_3.pdf

関連するデータ

参考 1:PISA2022 調査

- ・OECD が実施している、義務教育終了段階の生徒の国際的な学習到達度調査である PISA2022(令和5年12月発表)によれば、日本の子供の学力は数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーいずれの分野においても世界トップレベル。
- ・社会経済文化的背景(ESCS)の水準が高いほど習熟度レベルが高い生徒の割合が多く、低いほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い傾向が見られることは、OECD 平均と同様の傾向だが、日本は社会経済文化的背景水準別に見た数学的リテラシーの得点差が小さく、かつ、社会経済文化的背景が生徒の得点に影響を及ぼす度合いが低い国の一つとされている。
- ・学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かったという課題も指摘されている。

https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

参考 2:全国学力・学習状況調査

- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、社会経済的背景(SES)が低い状況にあっても各教科の正答率が高い傾向が見られる。(令和6年度調査)

<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24summary.pdf>

- ・また、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、社会経済的背景(SES)が低い状況にあっても自己有用感等も高い傾向が見られる。(令和5年度調査追加分析)

https://www.mext.go.jp/content/20240516-mxt_chousa02-000036016_09.pdf

(3)現行学習指導要領の実施上の課題

(指摘されている課題)

- 前回改訂による前文と総則の優れた趣旨の実現に向けた学校現場の積極的な取組により、授業改善に一定の効果をもたらした一方、地域や学校によって差があるなど、趣旨の浸透は道半ばであり、以下のような課題も指摘。
 - ・新教育課程実施のタイミングがコロナ禍と重なり、「主体的・対話的で深い学び」の実践の妨げとなったのではないか。
 - ・学習指導要領における記載にわかりにくい側面があることが趣旨の浸透の妨げになっているのではないか。(例:曖昧な用語、多義的な用語、誤解を招く用語)
 - ・前文や総則の理念を第二章の各教科の目標・内容や検定教科書において更に実質化していくことが必要ではないか。
 - ・文部科学省⇒都道府県教育委員会⇒市町村教育委員会⇒学校という固定的経路での情報伝達や、指導資料を中心とした情報発信のみでは学習指導要領の趣旨やねらいが必ずしも十分に伝わらないのではないか。
 - ・入試が必ずしも十分に変わっていない中で、授業改善の方向性と入試の出題傾向にズレが生じ、結果として教科書の内容も授業も変わりづらいのではないか。
 - ・学習指導要領の趣旨やねらいが保護者や産業界などの社会的ニーズと整合している必要。その乖離が大きいと、学校が取組を実施しにくくなったり、公立学校離れを招いたりするなど、意図せざる結果を招きかねないのではないか。一方で、保護者や社会のニーズ自体に課題がある場合もあり得る点に留意が必要。

- ・教師の多忙化が学習指導要領の趣旨実現を阻害しているとともに、教育課程の実施に伴う負担感が大きいのではないか。

関連する御発表

第7回 戸ヶ崎勤 委員(戸田市教育委員会教育長)

学習指導要領の前文や総則に示された趣旨を着実に定着させ、一人一人の興味・関心や能力等に応じた「子供主体の授業」への転換を目指していく観点から、教科書の在り方やその活用方法、教育委員会による学校支援の方向性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_03.pdf

第7回 貞広斎子 委員(千葉大学副学長・教育学部教授)

学習指導要領のコンセプトの普及・理解をさらに進めて学校現場に実装し、子供及び教師が学習指導要領を「乗りこなしている」状態にしていくために必要な現状の捉え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_04.pdf

第7回 市川伸一 委員(東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高等学校校長)

学習指導要領の多義性・曖昧さや周知方法の課題に加え、社会的ニーズとマッチしない理想の追求がかえって公立学校離れといった意図せざる結果を招きかねないことなどにも触れつつ、学習指導要領の趣旨が実際に学校における教育指導の改善に繋がっていくための方策について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_02.pdf

第13回 国立教育政策研究所教育課程研究センター【再掲】

国立教育政策研究所が実施している小学校学習指導要領実施状況調査に関して、現時点での暫定的な分析状況に基づき、学習指導要領の趣旨の学校における受け止めや資質・能力の育成の状況、教育課程の裁量の在り方に係る学校現場の考え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_2.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_02_3.pdf

2. これからの社会像や現状の課題を踏まえた資質・能力

(1) 学習指導要領における資質・能力の枠組み

関連する御発表

第12回 石井英真 委員(京都大学大学院教育学研究科准教授)

全ての子供に有意味で深い学びを保障していくという観点から、学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、目指す授業や学びのデザインに直結するシンプルで理解しやすいものとしていくための方策や、教育課程の実施に伴う過度な負担感が生じにくい仕組みを整えることの必要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_02.pdf

(2) 学習の基盤となる資質・能力

関連する御発表

第10回 今井むつみ 氏(慶應義塾大学環境情報学部教授)

学習の基盤となる資質・能力としての「言語能力」に関して、人間と生成 AI の言語処理の違いにも触れつつ、子供が「言葉」という記号の意味を感覚的に接地させていくこと(記号接地)の重要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_03.pdf

第10回 藤森裕治 氏(文教大学教育学部教授)

学習の基盤となる資質・能力としての「言語能力」に関して、SNS 等の匿名性に乘じた誹謗中傷といった社会問題や、生成 AI の発展、人口集中と地域の教育力の脆弱化といった課題を踏まえて今後求められる資質・能力の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_04.pdf

第10回 高橋純 委員(東京学芸大学教育学部教授)

学習の基盤となる資質・能力としての「情報活用能力」に関して、GIGA スクール構想による一人一台端末の導入や、問題発見・解決能力や言語能力といった他の資質・能力との関係も見据えた上で、考えられる情報活用能力の定義の在り方やその具体的な育成を図る上での学習内容の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_5_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_5_2.pdf

(3) 学校におけるデジタル学習基盤の整備を踏まえた学びの在り方について

関連する御発表

第12回 奈須正裕 座長代理(上智大学総合人間科学部教授)

学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、一人一台端末という学習基盤(デジタル学習基盤)を前提とした学びの在り方や、個に応じた学びを一層進めるための柔軟な教育課程の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_03.pdf

第10回 高橋純 委員(東京学芸大学教育学部教授)【再掲】

学習の基盤となる資質・能力としての「情報活用能力」に関して、GIGA スクール構想による一人一台端末の導入や、問題発見・解決能力や言語能力といった他の資質・能力との関係も見据えた上で、考えられる情報活用能力の定義の在り方やその具体的な育成を図る上での学習内容の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_5_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240325-mxt_kyoiku01-000034866_5_2.pdf

3. 各教科等の目標・内容、方法、評価

(1) 資質・能力の育成に向けた効果的な目標・内容の構成方法

関連する御発表

第12回 石井英真 委員(京都大学大学院教育学研究科准教授)【再掲】

全ての子供に有意味で深い学びを保障していくという観点から、学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、目指す授業や学びのデザインに直結するシンプルで理解しやすいものとしていくための方策や、教育課程の実施に伴う過度な負担感が生じにくい仕組みを整えることの必要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_02.pdf

第12回 奈須正裕 座長代理(上智大学総合人間科学部教授)【再掲】

学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、一人一台端末という学習基盤(デジタル学習基盤)を前提とした学びの在り方や、個に応じた学びを一層進めるための柔軟な教育課程の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_03.pdf

第8回 OECD 教育スキル局、東京学芸大学(日本 OECD 共同研究事務局)

OECD からは、Education 2030 プロジェクトでの取組の視点から、21 世紀型カリキュラムに向けた国際的なトレンドや OECD が実施しているカリキュラム分析のこれまでの成果(カリキュラムのデザイン原則等)について御発表。また、日本 OECD 共同研究の事務局である東京学芸大学からは、カリキュラムに関わる多様なステークホルダーの関わりを「エコシステム」として有機的に捉え、趣旨実現に向けた取組を行っていく事例について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20231024-mxt_kyoiku01-000032399_03_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/231024-mxt_kyoiku01-000032399_03_02.pdf

第8回 国立教育政策研究所教育課程研究センター、

下村智子 氏(三重大学准教授)、福本みちよ 氏(東京学芸大学教授)

国立教育政策研究所からは、諸外国における教育課程改革の動向について、各国の事例を挙げつつ俯瞰的に御発表。加えて、下村氏からカナダのブリティッシュ・コロンビア州やオンタリオ州における教育課程の構造化の事例について、福本氏からニュージーランドにおける学校カリキュラム開発支援の事例について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/231024-mxt_kyoiku01-000032399_02.pdf

(2) 学習評価の現状と育成すべき資質・能力を踏まえた今後の対応

関連する御発表

第11回 西岡加名恵 氏(京都大学大学院教育学研究科教授)

学習評価に関して、学習指導要領に定める資質・能力をより良く育成するという目標から逆算した指導や評価の効果的な設計方法の在り方や、その際におけるパフォーマンス課題・評価等の多様な評価手法の役割、「主体的に学習に取り組む態度」の評価・評定の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240425-mxt_kyoiku01-000035713_03.pdf

4. 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程

(1) 現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方

関連する御発表

第7回 戸ヶ崎勤 委員(戸田市教育委員会教育長)【再掲】

学習指導要領の前文や総則に示された趣旨を着実に定着させ、一人一人の興味・関心や能力等に応じた「子供主体の授業」への転換を目指していく観点から、教科書の在り方やその活用方法、教育委員会による学校支援の方向性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_03.pdf

第12回 奈須正裕 座長代理(上智大学総合人間科学部教授)【再掲】

学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、一人一台端末という学習基盤(デジタル学習基盤)を前提とした学びの在り方や、個に応じた学びを一層進めるための柔軟な教育課程の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_03.pdf

(2) 教育課程の柔軟性の在り方

関連する御発表

第5回 荒瀬克己 委員(独立行政法人教職員支援機構理事長)

中央教育審議会における高等学校教育の在り方ワーキンググループの論点整理の内容を紹介しつつ、高等学校教育の在り方に関して御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230621-mxt_kyoiku01-000030496_03.pdf

第6回 秋田喜代美 座長代理(学習院大学文学部教授)

幼児教育から高等学校卒業段階までの子供の発達を連続的に支えるための方策や、子供一人一人の特性等を踏まえた包摂的な教育課程のあるべき方向性について御発表。

<https://www.mext.go.jp/content/20230713-kyoiku01-000030920-03.pdf>

第9回 研究開発学校からの発表

研究開発学校制度を活用して教育課程の基準の改善に資する実証研究を行っている学校または当該学校の設置者から、取組状況について御発表

①目黒区教育委員会(40分授業午前5時間制を活かした創意工夫ある教育課程開発)

https://www.mext.go.jp/content/20240130-mxt_kyoiku01-000033750_02.pdf

②春日井市教育委員会(情報活用能力の育成を目的とした「情報の時間」の創設)

https://www.mext.go.jp/content/20240131-mxt_kyoiku01-000033750_03.pdf

③愛媛大学附属高等学校(大学と連携した生徒一人一人に応じた探究的な学びの実現)

https://www.mext.go.jp/content/20230130-mxt_kyoiku01-000033750_04.pdf

第12回 奈須正裕 座長代理(上智大学総合人間科学部教授)【再掲】

学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、一人一台端末という学習基盤(デジタル学習基盤)を前提とした学びの在り方や、個に応じた学びを一層進めるための柔軟な教育課程の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_03.pdf

(3) 学校段階間の連携・接続の在り方

関連する御発表

第6回 秋田喜代美 座長代理(学習院大学文学部教授)【再掲】

幼児教育から高等学校卒業段階までの子供の発達を連続的に支えるための方策や、子供一人一人の特性等を踏まえた包摂的な教育課程のあるべき方向性について御発表。

<https://www.mext.go.jp/content/20230713-kyoiku01-000030920-03.pdf>

第13回 秋田喜代美 座長代理(学習院大学文学部教授)

今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会における中間整理案の内容を紹介しつつ、今後の幼児教育と小学校教育との円滑な接続の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_04_1.pdf

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_04_2.pdf

5. 学習指導要領の趣旨の着実な実現を担保する方策や条件整備

(1) 教育課程を実施する上での学校現場の過度な負担を防ぐための在り方

関連する御発表

第12回 奈須正裕 座長代理(上智大学総合人間科学部教授)【再掲】

学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、一人一台端末という学習基盤(デジタル学習基盤)を前提とした学びの在り方や、個に応じた学びを一層進めるための柔軟な教育課程の在り方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_03.pdf

第12回 石井英真 委員(京都大学大学院教育学研究科准教授)【再掲】

全ての子供に有意味で深い学びを保障していくという観点から、学習指導要領の目標・内容の示し方に関して、目指す授業や学びのデザインに直結するシンプルで理解しやすいものとしていくための方策や、教育課程の実施に伴う過度な負担感が生じにくい仕組みを整えることの必要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_02.pdf

(2) 教科書・教材の在り方

関連する御発表

第12回 天笠茂 座長(千葉大学名誉教授)

学習指導要領の改訂を反映したこれまでの教科書の在り方の変遷や、現行の学習指導要領を受けた教科書の編集上の工夫等を踏まえつつ、これからの教科書が変わっていくべきポイントや、教科書だけではなく教材も含めた一体的充実の必要性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240610-mxt_kyoiku01-000036442_04.pdf

第7回 貞広斎子 委員(千葉大学教育学部教授)【再掲】

学習指導要領のコンセプトの普及・理解をさらに進めて学校現場に実装し、子供及び教師が学習指導要領を「乗りこなしている」状態にしていくために必要な現状の捉え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_04.pdf

(3)カリキュラム・マネジメントの実態と今後の推進の在り方

関連する御発表

第5回 天笠茂 座長(千葉大学名誉教授)【再掲】

第2回、第3回での御発表や、「令和の日本型学校教育」や「第4期教育振興基本計画」に係る中央教育審議会答申で見通されたこれからの社会像に関する議論を踏まえつつ、今後の学校教育に期待されることやその在り方について、教育課程やマネジメントの側面から御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230621-mxt_kyoiku01-000030496_02.pdf

第13回 富士原紀絵 委員(お茶の水女子大学教授)【再掲】

全国学力・学習状況調査の結果やお茶の水女子大学が実施した追加分析等に基づき、学習指導要領の趣旨実現に向けた学校現場の取組状況や、カリキュラム・マネジメントの実態等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20240710-mxt_kyoiku01-000037001_03.pdf

(4)教育課程の円滑な実施に向けた学校への支援と環境整備

関連する御発表

第7回 貞広斎子 委員(千葉大学教育学部教授)【再掲】

学習指導要領のコンセプトの普及・理解をさらに進めて学校現場に実装し、子供及び教師が学習指導要領を「乗りこなしている」状態にしていくために必要な現状の捉え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_04.pdf

第7回 戸ヶ崎勤 委員(戸田市教育委員会教育長)【再掲】

学習指導要領の前文や総則に示された趣旨を着実に定着させ、一人一人の興味・関心や能力等に応じた「子供主体の授業」への転換を目指していく観点から、教科書の在り方やその活用方法、教育委員会による学校支援の方向性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_03.pdf

6. 学習指導要領の趣旨の実現に向けた政策形成・展開

- (1) 学習指導要領・解説等の形態
- (2) 学習指導要領の改訂プロセス、学校や教育委員会への浸透の在り方
- (3) 社会的ニーズとの整合性

関連する御発表

第7回 貞広斎子 委員(千葉大学教育学部教授)【再掲】

学習指導要領のコンセプトの普及・理解をさらに進めて学校現場に実装し、子供及び教師が学習指導要領を「乗りこなしている」状態にしていくために必要な現状の捉え方等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_04.pdf

第7回 戸ヶ崎勤 委員(戸田市教育委員会教育長)【再掲】

学習指導要領の前文や総則に示された趣旨を着実に定着させ、一人一人の興味・関心や能力等に応じた「子供主体の授業」への転換を目指していく観点から、教科書の在り方やその活用方法、教育委員会による学校支援の方向性等について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_03.pdf

第7回 市川伸一 委員(東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高等学校校長)【再掲】

学習指導要領の多義性・曖昧さや周知方法の課題に加え、社会的ニーズとマッチしない理想の追求がかえって公立学校離れといった意図せざる結果を招きかねないことなどにも触れつつ、学習指導要領の趣旨が実際に学校における教育指導の改善に繋がっていくための方策について御発表。

https://www.mext.go.jp/content/20230901-mxt_kyoiku01-00031845_02.pdf